采如戴花勝、人名戴鴦戴頒、凡戴勝諸說不同、雖未詳其形、而似鳩之大、今本邦菊戴極小之鳥、非鳩鴟山鵲之比、其戴菊亦不似花勝、袁了凡曰、戴勝首戴毛如花勝、司馬相如傳、西王母白首戴勝、勝者婦人首飾、漢代曰花勝、字書亦旛勝者婦人首飾也、

〔和漢三才圖會四十三林禽〕菊戴鳥　正字未詳俗云菊以太々木

按、菊戴鳥狀似眼白鳥、〇略中其聲如曰豆伊豆伊而短小、性怕寒難育、

〔喚子鳥上〕きくいたゞき　ふがひ生ふ壹夕五分、あをみ入、粉壹夕、くるみ入、

大きさゞいにちいさし、毛色あをくろく、かしらにきいろのすぢ有、さへづりよし、よはき鳥にて冬を越がたし、夏はつよし、冬いづる、

〔武江產物志〕山鳥類　きくいたゞき高田邊

〔風俗文選三譜〕百鳥譜　支考

おのれがかたちを名になせるものは、目白頰白のたぐひなるに、鷃（きくいたゞき）は殊におかし、年々菊をいただきける自然の理はあやまたねど、ことしは珍しう、梅花をもかざせよかし、

〔和漢三才圖會四十三林禽〕仙遊鳥　正字未詳

按仙遊鳥狀小似眼白鳥、形色似雲雀、背黑色、其尾能開合、擴則如孔雀尾、人畜之弄翫、其聲不應、形高亮、似瞿唧唧聲、性畏寒不易育、

〔類聚名義抄九〕鶸鳩鶩　俗或正、音秋、ミツトリ、大トリ、カシドリ、　梨鶩カシドリ

〔運歩色葉集鳥名〕鶩カシドリ

〔饅頭屋本節用集加生類〕鶩カシドリ

〔本朝食鑑六林禽〕懸巢鳥　訓加計須

釋名、樫鳥、カシ俗稱、斯鳥營巢于深山樹上、而不能堅固、但懸一枝而垂下、故名云、未詳、堅木者橿也、每棲堅木之樹而鳴、因名之、